

# 平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

## 1. 学校概要

学校名 岡山龍谷高等学校 (※正式名称を記載)  
種 別 ☐ 保育園・幼稚園 ☐ 小学校 ☐ 小中一貫<sup>※注1</sup>  
☐ 中学校 ☐ 中高一貫<sup>※注2</sup> ☒ 高等学校  
☐ 教員養成大学 ☐ 専修学校、各種学校  
☐ 特別支援学校  
☐ その他（例：小中高一貫）  
所在地 〒 714 — 0081  
岡山県笠岡市笠岡 8 7 4  
E-mail info@ok-ryukoku.ed.jp  
Website http://www.ok-ryukoku.ed.jp/  
幼児児童生徒数 男子 298 名 女子 375 名 合計 673 名  
幼児・児童・生徒の年齢 16 歳～ 18 歳

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

## 2. 報告期間

平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月

※報告書提出時点～平成 30 年 3 月末までの活動は、予定（見込み）として記載ください。

## 3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要（800 字程度＋活動内容を表す写真数枚）

※チェック事項 1-1、2-1 に対応

本校は、「自然に目覚め、自然に勧め」という建学の精神に基づき、ESD を ESD の実践を通して、自ら課題を見つけ、自ら学び、主体的に判断・行動できる力の育成を目標とした。

具体的には、今年度は、「研究、体験、表現」というテーマを柱に、国際、環境、医療、福祉、食育、教育、生物、人権、平和に関わる学習や活動を行った。以下は、①国際理解に係わる活動、②食育に係わる活動、③教育に係わる活動、④人権に係わる学習を行った。

### ① 国際理解に係わる活動

普通科 2 年生が、模擬国連に参加した。生徒は各国の大使になりきり、実際の国連の会議を模擬した。各会議準備として担当国や議題についてリサーチ後、政策を立案、また会議では自国の政策をもとにそれぞれの国益を考慮しながらも、国際社会としての問題解決に貢献するために、演説や交渉を行った。また、春休み中にマレーシアに渡航し、現地の文化に触れたり、他国の高校生と交流を深めるなどをした。

## ② 食育に係わる教育

大学や専門学校の先生方協力の元、栄養学を中心とした学習をしながら、地元産業の活性化や地産地消という観点からの地域企業と共同開発した商品を開発し、笠岡市内のイベントにおいて年4回出品している。また、市に要請し、施設を借りて食物を栽培するところから手掛け、収穫したものを利用したメニューを考案するなど行った。また、「ご当地 うまいもん甲子園」への出場など地産地消の可能性を探る取り組みにも挑戦した。今年度は「食育推進全国大会」にも参加している。

## ③ 教育・福祉・医療に係わる活動

夏季休業中に地元の小学生の勉強や自由研究の指導を本校の生徒が行うといった活動や小学校の始業前に出向いて「読み聞かせ」をするなど学習支援を行う取り組みを系の生徒全員で行った。その他には、子供の孤食に対する支援や既製品ではなく家庭料理を子供にという趣旨で地域の子供に手料理を振る舞う「こども食堂」にも参加した。また、震災被害への支援プログラムの一つである「ひまわりプロジェクト」にも参加し、本校では福島県の小中高生を笠岡に招き、交流を深めている。また、少子高齢化に伴い小さな島が多い地元での問題として過疎地の医療についても着目し、現状を調べ対策を生徒なりに考え発表した。

## ④ 人権に係わる活動

「子どもの笑顔が平和につながる」という考えのもと、児童虐待防止に関しても力を入れて活動した。児童虐待防止への関心を持ってもらうため、地元のお祭りでオレンジリボンを配布した。また、児童虐待防止ビデオを製作し、コンテストにも出展した。



① の写真 (キャプション)



② の写真 (キャプション)



③ の写真 (キャプション)

## (2) 活動の詳細

### ① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

#### ア. 活動分野（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input checked="" type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他( )		

#### イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入 )	

#### ウ. 活動時間（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input checked="" type="checkbox"/> 5. その他(自由記述 学校設定科目として )	

#### エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

特に教材はなく、大学・専門学校・企業と連携して取り組むことが多かったが、基本的には担当の教員が各自作成した。

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

本校の普通科において、特別進学コースでは「RLA」という名称でもに放課後や土曜授業日などを活用して行っている。進学教養コースでは「RINGS」という名称で週に1時間を時間割に組み込み、考査後の授業日や長期休業中に校外での活動など移動を伴うものや時間のかかるものはそこで行っている。「RLA」「RINGS」ともに学校設定科目として単位を認定している。「RINGS」に関して、1年次はクラスの枠を超えて学年での活動として行い、2、3年次は縦割りで各系に分かれて行うことで内容の引継ぎや取り組みの年次ごとの向上を図っている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

学校経営方針にも学校の中期・短期経営目標にも活動の充実は掲げられており、そこから校務分掌上の担当をトップとして据えるとともに、「RINGS」「RLA」ともに責任者およびコーディネーターを置くことで、それぞれの分野の担当者だけが独立した動きをするのではなく、様々な分野に取り組みながらも、連携が取れるように人事をしている。また、どちらの活動も月ごとの報告を義務付けており、学期に1回以上の会議を行うことを定めている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

内部の評価としては、各系の担当者が、生徒各個人の活動状況、内容、態度などを観点別に評価し、成績に反映している。外部での活動も一部に生徒に偏りが出ないように、校外活動は全員が行えるようシフトを組むなどをし、全員での取り組みとなるよう工夫し、評価が行えるようにした。外部に関しては、岡山県のユネスコスクールネットワーク内での活動発表会に参加し、そこで年間通しての活動を発表している。そこで他校に比べて内容が分散し過ぎている現状が明らかになった。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

全体としては、年度末に校内での発表をポスター発表と代表者によるプレゼン発表会として行っている。そこでは、各系以外の担当者によって相互評価を行うこととしているため、次年度に向けた課題を見直すことができています。また、学校のホームページで逐一発信するとともに各コンテストや大会などに参加することでも内容は発信できていると考えています。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)  
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

笠岡市役所内の各部署と連携し、各種ボランティア活動などに参加や企画運営をしている。地元企業の協力の元で海洋研究やエネルギーに関する学習を行うとともに食育に関する大会やイベントへの参加も行っている。岡山県ユネスコスクールネットワーク協議会の後援として岡山大学と岡山市のESD推進室が連携して各種活動の支援をしてくださっている。また、近隣の大学からも、大学施設の利用や講義や講師派遣などで協力していただいている。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

岡山県ユネスコスクールネットワークを介して、今年度初めてブルガリアの高校生と交流した。また、現在、マレーシア・台湾の大学・高等学校との交流を進めており、今後は国外のユネスコスクールとの交流が行える環境ができる可能性がある。しかし、まだ、数名の教員と生徒が渡航しての交流にとどまっており、今後はまだどうなるのか方向性が明確になっていない。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）

※チェック事項 2-5 に対応

生徒においては、様々な系に関わる経験の中で講義形式中心の授業では得られない知識や経験を得ている。それによって早い段階での進路意識も芽生え、進路決定にも役立っている。教員においては、生徒主体で取り組みが行えるよう工夫を凝らした準備や段取りを行うことで、専門以外のことにも手を出すことで、幅広い知識の研鑽につながっている。地元の企業も高校生のアイデアや行動力を得られているメリットもあると話されていた。

- （3）平成 30 年度の活動計画（200～400字程度）

平成 30 年度より、本校での実質的なユネスコスクールとしての活動における各系の担当者のメンバーが大幅に変更されるため、まだ確定していない。しかし、内容としては基本的に例年通りの動きとなる。「RLA」は文／理で大きく分かれ、そのうち理系に関しては、生物・化学・環境の分野で取り組む予定となっている。平成 30 年度からはSDGsをより意識した内容となるよう計画している。「RINGS」に関しては、既存の系に加え、国際系と称し、そこでユネスコスクールとしての年間を通じた活動を行う系を新設する動きも出ている。これまで各系で独立した動きを志願者でとりまとめ発表していたものも、新設した系で行わせることも考えている。

どの系も活動のおおまかな流れは同じで、1 学期～：事前学習＋テーマ決定、1 学期末～2 学期末：校外活動を中心とした体験や研究、3 学期：まとめ＋発表となっている。「RINGS」の1 年生は、年間を通じ次年度に所属する系を決めていくための学習プログラムとなっている。